新春知事対談（福井テレビ）

　このページは、令和４年１月３日（月）に福井テレビで放送された新春知事対談番組の内容をまとめたものです。

　番組では、見延和靖（みのべ・かずやす）さん（フェンシング選手）、三谷元騎（みたに・げんき）さん（ホッケー選手）を招いて、東京オリンピックでの活躍、スポーツの魅力やスポーツによるにぎわいづくりについて語り合いました。

**（東京オリンピック・パラリンピックの活躍）**

【司会】

本日は、福井県出身で、スポーツ選手として活躍するお二人をゲストにお招きし、杉本達治知事とともに、東京オリンピックの活躍について、そしてスポーツの魅力やにぎわいづくり、地域活性化についてお話を伺います。

【司会】

　見延さん、三谷さんをはじめ、去年夏に開催された東京オリンピック・パラリンピックでは、多くの福井県ゆかりの選手が活躍されましたが、知事どのように感じましたか。

【知事】

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの時には、県内から１０名、選手の方が出られましたが、昨年の東京オリンピックは過去最高の２０名の方、もちろん見延選手も金メダルを取られましたし、野球の侍ジャパンで吉田正尚選手と栗原陵矢選手が見事、金メダルを取られました。

その他、山口茜選手のバドミントンとか清水邦広選手のバレーボールとかたくさん活躍していただいて、本当に盛り上がったと思います。

【司会】

毎日のように県勢選手の活躍を応援することができましたね。

さて見延さんは、フェンシング男子エペ団体で日本初の金メダルを獲得されましたが、振り返ってみていかがですか。

【見延】

長年オリンピックで金メダルを獲得するというのは大きな目標の一つとしていたので、金メダルを取った瞬間は本当に夢のような気持ちでした。最後1点取ってチームが集まって「やったー」って言いながらも、「これ夢じゃないですよね」、「多分そうだと思う」みたいな、「オリンピックの金メダルだと思う」という感じで、本当に取った瞬間は夢の中にいるような感じでした。

それが日に日にメダルが手元にあることで実態がわいてきて今ではすっかりもう、金メダルは僕が取ったぞと自信をもって言えるようになっています。

【司会】

見延選手が真っ先にみなさんの元に駆け寄る姿が印象的だったんですが、見延さんが考案された「エペジーーン」という言葉もとても話題になりまして、新語流行語大賞にもノミネートされましたね。どんな思いが込められたんでしょうか。

【見延】

そうですね。僕が考案したというよりも、チーム中から自然とわいてきた言葉なのかなっていう感じで、もともとエペの陣営の陣と書いてエペ陣と。サーブル陣、フルーレ陣、そういうふうに呼ぶところもあって、そこで僕たちはエペという種目を通して感動を届けるんだ、スポーツを通して感動を届けるんだ、相手の気持ちをジーンとさせたいという想いが入ってきて、エペ陣、エペジン、エペジーン、エペジーーンとどんどん伸びていって、僕たちの合言葉、僕たちもエペジーーンとして頑張るんだ、っていうのが自然と発生してきました。

【司会】

この言葉は東京オリンピックで考案されたんですか。

【見延】

やっぱり僕も前回のリオデジャネイロを経験してその時は個人戦のみの出場となり、メダルも逃してしまいまして、必ず次の東京では、団体戦で出場して団体戦で金メダルを取るんだという想いがあって、その強い思いから、生まれた言葉でもあります。

【司会】

ジーーンというのは感動を届けるという意味も込められていたんですね。

【見延】

そうですね。

【司会】

知事このエペジーーンという言葉はご存じでしたか。

【知事】

知らなかったんですけど、本当に見延選手がエペジーーンって言葉を言われているとき、いつもテレビ見ながらマスクしていましたけれども、エペジーーンって盛り上がりましたよね。熱くなりました。すばらしい言葉だと思いました。

【司会】

知事もエペジーーンとされましたか。

【知事】

エペジーーンしましたね。大変感動しました。

【司会】

県民の皆様も多くの皆さんも見ながらエペジーーンとされた方も多いと思います。

そして知事、先日、見延選手に県栄誉賞を贈られましたが、どういった想いが込められているんでしょうか。

【知事】

もちろん東京オリンピックで、金メダルを取られて野球のお二人を含めて県民の皆さんに大きな感動を与えていただいたということはありますし、見延選手もそうですし、野球のお二人もそうですけども、とても日頃から福井県に対して馴染みをもっているというか、とても貢献してくれている。福井に帰ってきて子どもたちにいろいろなことを教えていただいたり、一緒になって競技を振興していただいたりということをしてくださっていて、県民の皆さんのこぞって応援したい、感動を自分たちも共有して、それで選手の皆さんに何とか貢献したいという気持ちが今回の県栄誉賞になったというふうに思っております。

【司会】

見延さん、実際に受賞した感想はいかがですか。

【見延】

本当に自分がもらっていいのかなと思うような。これまでの受賞者を見ても名だたる人が受賞されているので、恐れ多い部分もありましたけれども、この賞に恥じぬように、これからもっと精進してまいりたいなと思っています。

僕自身が今回代表としてオリンピック出場しましたけれども、日本代表である前に、福井県代表であるということ、越前市代表であるということを常に考えているので、そういうところを評価していただいたのかなと思っていて、本当にありがたいと思っています。

【知事】

まさにそのとおりですね。

【司会】

ぜひこれからも県民に勇気と希望を与えてください。

続いて、三谷選手も快挙の連続でした。

　オリンピックに男子ホッケーの副キャプテンとして出場されました。日本の男子ホッケーがオリンピックに出場したことは、なんと、５３年ぶりだったんですね。

そして福井県からホッケー選手としてオリンピックに出場したことも、三谷選手が初めてということで、とても歴史的なことだと思いますが、振り返ってみていかがでしたか。

【三谷】

自分は今、３１歳ですけれど、１９歳のときに代表になりました。

　それからロンドン、リオデジャネイロ、それぞれ予選を経験して何とかオリンピックに行きたいと思っていたんですけれど、なかなか他の国が強くてオリンピックに出られないという中で、リオデジャネイロが終わった時点で、もう自分はもうやめようと思っていたのですが、最後東京オリンピックがあるということで、そこまでしっかり頑張ろうと思いました。

一番やっぱり自分の中で印象に残ったのは、初戦の君が代が流れたときに、オリンピック前というのはすごい自分の中でナーバスになっていた時期があって、自分の怪我であったり、メンバー選考、このオリンピックのピッチに立つために、仲間同士でいろいろ切磋琢磨してきた中で選ばれた１６人。そこに入っていなかった仲間の想い、家族、福井県の応援していただいてる皆さん、いろいろなことが自分の中で思い出されてきて、本当にこのオリンピックはやるしかない、結果を出すことが何よりだと思って臨んだ大会だったんですけれど、本当に結果がついてこなかっただけにすごい悔しい大会でした。

【司会】

でも、世界ランキング一位のオーストラリア戦では、あと一歩のところまで迫りましたよね。手に汗握る白熱した試合が印象的だったんですが、その時の感想などありますか。

【三谷】

オーストラリアとは、これまで５回くらいは試合したことあるんですけれど、1回だけ勝ったことがあって、でも実際力の差がすごくあると実感した中で、自分が１０年間日本代表をやらせてもらってる中で、ここ最近が一番チームとして成熟度が高かった、自分の中でも勝てるんじゃないかと期待した中での試合で、初戦は負けたのですが、この調子でいけば、残りはいけるっていう感覚はありました。

【司会】

今回の東京オリンピックは無観客でしたが、実際に地元福井の応援や後押しなどは励みになりましたか。

【三谷】

それはもうオリンピックだけじゃなくて、福井の方の応援は常日頃から感じていますし、国体の時とかも本当にすごい県民の方、みんなで応援していただいたっていう思いがあったので、すごくありがたいと思ってます。

【司会】

地元の応援はしっかり届いたということですね。

　見延さんはいかがですか。

【見延】

本当にいつも支えられています。

　特にオリンピック前で感じたのは、コロナ禍の中、練習が制限されて、開催が危ぶまれたあの時期、僕としてもどこに目標をもったらいいのか、どっちに進んだらいいのか、はたまた自分の価値ってなんだろうと自問自答するような時期もありましたけれども、その中で、やっぱり地元の人たちだったり、友達だったりが、オリンピックが１年延期になっても、もしなくなったとしても、この先ずっと応援しているから、自分しかできないことをやってね、応援しているよ、いつまでもっていう言葉を福井県の皆さまからかけていただいて、そこでやっぱり僕が迷ってはいけない、僕が希望や勇気を与える立場だから、自分がそういう気持ちを持っていてはダメだという想いになって、そこからもう一歩先に、東京オリンピックで結果を出すぞっていう気持ちになりました。一歩踏み出せる勇気をもらったなと思います。

【司会】

このコロナ禍で苦しい思いをされてる方がたくさんいらっしゃったと思いますけれども、皆さんの活躍を見て勇気をもらったという方もいらっしゃると思いますが、知事はお二人の活躍をどのようにご覧になりましたか。

【知事】

オリンピックを見てたときも、本当にお二人の活躍はとても感動したんですけれど、今の話も本当に感動しますよね。

そこまでの過程っていっぱいいろいろドラマがあるんだなというふうに、今伺っていて感じました。見ていて感動もいただきましたし、あと三谷さんの名前のように元気もいただきましたね。

フェンシングは、一瞬、どこで点が入ったの、どっちが獲ったのという一瞬の戦いという感じがしましたし、ホッケーは、交錯するときとか、ボールを奪い合う感じで、格闘技っていう感じがしましたし、とても迫力があったなと思います。

いずれも子どもたちが見て、ぜひ僕もやっていきたいって思う子がたくさん出てきたんじゃないかというふうに思ってます。

【司会】

お二人を見てオリンピックを目指したいと思う子どもたちも増えるかもしれませんね。

【知事】

そうですね。

**（後進の育成）**

【司会】

さて、オリンピックのほか、ワールドカップや国体などでも活躍されているお二人ですが、競技を始めた時期やきっかけについて教えてください。

まずは三谷さんからお聞きしてもよろしいでしょうか。

【三谷】

競技を始めたきっかけはもともと福井市に住んでて、それから小学校ちょっと前に越前町に引っ越してきたことがきっかけです。

越前町はホッケーを町で皆やっているので、まず、スポ少で、自分が小学校４年生になると自動的に友達と一緒に楽しみながら入ったっていうのがきっかけです。

【司会】

実際に、小学校から大学までホッケー続けられたんですよね。

一つ伺っているんですが、中学生のときは、ちょっと足が遅かったので自宅周辺の坂道を毎日走って努力していらっしゃったと聞いたんですが。

【三谷さん】

　そうですね。中学校のときは足が遅いことは、ちょっと気にはなっていたんですけれど、それ以上にテクニックを磨けば大丈夫だと思って、ドリブルをめちゃめちゃ練習したんです。中学校３年生のときに、福井新聞に、三谷は足遅いけれどホッケー上手いよみたいな感じのことを書かれていて、「何だこれは」と思いまして。それでちょっと自分の中で、めちゃめちゃ火がついて、足が遅いのはちょっと嫌だなと思って、家が山の近くに住んでいて、いっぱい坂があるので、そこから毎日坂で走って、速くなりました。

【司会】

ホッケーと言うとコート内を走り回るイメージがありますけれども、そういった地道な努力が今実を結んだということなんですね。

【三谷】

自分の場合はもう本当にあの新聞のきっかけというか、こんなんじゃ駄目だ、と。ちょっと自分の中ですごく恥ずかしかったんで。逆に今思えば、あの記事のおかげで、今もそうですけれど、自分は高校からはスピードが武器になったので、本当にあの新聞には感謝しています。

【司会】

悔しさをバネに頑張ったということですね。

　続いて見延さん、きっかけを教えてください。

【見延】

僕はフェンシングと出会ったのは高校からなんですけど、フェンシングはなかなか身近にあるスポーツではありませんでした。もともとは父親がフェンシングを経験していたようで、高校に進学するときに武生商業高校で強い部活で、素晴らしい指導者もいたので、父親が僕がスポーツが得意だったというのもあるので、フェンシングでがんばってみないかと言われて「え、フェンシング？」って、言葉も聞いたことあるようなないような感じだったんですけれど。武生商業に行ってフェンシングを体験したんですけれど、すごく楽しくて、このスポーツなら３年間楽しくやれるな、自分にすごく合っているな、と思って始めたのがきっかけですね。

【司会】

高校でフェンシング始める前は、また違ったスポーツをされていたんですよね。

【見延】

小学校は６年間、空手をやっていまして、そして中学校で３年間、バレーボールをやっていまして、全く別の競技を経験してフェンシングっていう感じになるかもしれないですけれど、意外と今のことを考えるとやっぱりその二つもすごくフェンシングに生きていると思うし、やっていてよかったなと思います。

【司会】

それぞれの経験が今のフェンシングにも生かされていると。

【見延】

そうですね。

【司会】

見延さんは福井県でフェンシングを始められて、過ごしたことが今の活躍に繋がっているなと感じることはありますか。

【見延】

やっぱり今回のオリンピックもそうですけれど、武生商業からオリンピック選手が４人出ていること、相当すごいことだと思いまして。この４人は前回のリオにも出場して２大会連続武生商業から４人オリンピック選手というのは、当時の恩師であった諸江監督の教えのもとに練習しているからだなと思います。当時を振りかえっても、今もそうですけれど、自分で考えさせることをおっしゃっていて、自分で課題を見つけて自分で解決する能力をひたすら先生から教わってきたので、その思考回路が今でも競技に生きてきています。

【司会】

今、お話にあった武生商業高校がある越前市の伝統工芸、越前打刃物も見延さんの活躍に一役買っていると伺ったんですが。

【見延】

はい、そうですね。ルーティンといいますか、僕の一つの競技に取り入れることがありまして、越前打刃物、アスリートって、試合があって、そこに向けてピークをつくっていくっていうのは、アスリートの一番大切な仕事の一つだと思っていて、僕が取り入れているのは、波を落とした時から上げていくとき、身体よりも先に心からつくっていくんですが、その心を整えるということに包丁を研いで無になって、包丁を研ぎ澄ませながら、自分のメンタルも研ぎ澄まされるというような感覚になるので、競技の中に取り入れてやっています。

【司会】

知事、福井の伝統工芸品が見延さんの活躍にも一役買っているんですね。

【知事】

私もいろいろなイベントに行くときに、包丁を持ち歩かなくちゃいけないですね。ちょっと危ないかもしれませんけれども。本当に心から、心を整えるのに、集中して打刃物を研ぐという、いろいろな自分のジンクス、やり方を見つけていくっていうのも、スポーツの世界にはよくあるなというふうには思いますね。

【見延】

包丁っていうのは、一本一本職人さんが手作業で魂を込めて作っているもので、包丁を見たときにすごく美しくて圧巻されて、地元は本当に誇りに思えるところだなと思って、先ほども話したように地元の代表だという気持ちもあって、やっぱり包丁に込められているのは魂ですよね、そこも僕にこうちょっと乗っけるような意味合いも込めて包丁を研いでますね。

【司会】

続いて三谷さん、今の活躍に繋がっていると感じることはありますか。

【三谷】

ホッケーに関して言えば、越前町の環境っていうのが今思ってもすごいなって。自分が小学校５年生ぐらいの時に福井県立ホッケー場ができたと思うんですけれど、それが国際基準の人工芝っていうことで、自分は小学校高学年のころからもう国際規格の素晴らしい人工芝で練習することができました。

それから中学校、高校も全部人工芝と、それが本当にどれだけすごいことかっていうのは、福井がやっぱり特別なんですね。

ほかの県ではそれが当たり前じゃなくて、本当に自分の中で今振り返ると、福井の環境、ピッチとあとすばらしい指導者がたくさんいるので、本当に自分は恵まれながら、ここまできたと思います。

【司会】

今、お二人の話の中に、よい指導者であったり環境が整っていたという話がありましたけれども、知事、これからもお二人のように世界で活躍する選手を育成していくために、県はどのような取り組みを進めていますか。

【知事】

本当にお二人の活躍を見ていても思いますけれども、スポーツっていうのは、地域を、見る人も元気にさせるというか、勇気を与えると思っております。

そういうこともあって、平成３０年の福井国体がありましたけれども、その頃からですね、有望選手を発掘してくるとか、また「スポジョブふくい」といって、ＵＩターンでスポーツの優秀な選手を福井県に招くというようなこともやってきました。

いろいろな企業さんに話を聞くと、スポーツに真剣に取り組んでいる方が最初はスポーツ中心で仕事との関わりになるんですけれども、そのスポーツやめた後も仕事も本当に職場の雰囲気も良くなってはかどるっていう話を聞いたことがあります。

スポーツっていうのは、地域全体を盛り上げるなというふうに思います。ですから、福井は、さらにお家芸、ちょうど三谷選手がおっしゃっていたように、越前町はホッケー、鯖江市が体操をやったり、ボートの美浜町、これは今までのお家芸ですけれど、新しくフェンシングは越前市、山口茜さんのバドミントンの勝山市やビーチバレーは小浜市で取り組むっていう感じです。

そういうお家芸でやっていくと、子どものころから自然とそれに馴染んで、たくさんの人がそれに取り組んで福井県が強くなるということになりますので、そういうことでもスポーツを盛り上げたいと思います。

【司会】

三谷さん、県や市町が行っている後進の育成についてはどうですか。

【三谷】

後進の育成に関しては、積極的に協力していきたいなと思っています。

【司会】

見延さんはいかがですか。

【見延】

やっぱり僕自身も、フェンシング全体を通してもそうですけれど、先輩から受け継いだことがあって、僕がここまで1人では金メダルは取れなかったと思っています。先輩たちがチャレンジして、今回金メダルを取れたと思いまして、僕たちがやってきた技術や経験を後進が育つために継承していきたいと思うし、本当に福井県がフェンシングのまちとなるように、地元の子たちにも、僕たちができることはいろいろやっていきたいと思っています。

【司会】

これから県の取組みを通して、お二人のように世界で活躍する選手が県内から出てくるのが楽しみですよね。

【知事】

そうですね。

**（スポーツを通じた地域活性化）**

【司会】

さて、県はトップアスリートを養成しスポーツ熱を高める一方で長期ビジョンの中でスポーツを通じたにぎわいづくり、そして地域活性化について取り組んでいくこととしていますけれども、知事どういった取り組みを進めていきますか。

【知事】

スポーツは、本当に例えばオリンピックやプロスポーツとかもありますし、例えば夏にあるアスリートナイトゲームズとか、三谷さんも所属していただいている「ふくい県民応援チーム」というのがあって、これは「ＦＵＫＵＩＲＡＹＳ」という名前になりましたけれども、こういうのを見て楽しむ、見て盛り上がるっていうことがまず一つあります。

その上で、やっぱり自分もしてもらう。自分もスポーツを楽しむっていうこともとっても大事だというふうに思っています。

そういう意味では来年は、日本スポーツマスターズを福井県で開催させていただきますし、また翌年も新幹線が来るときには「ふくい桜マラソン」、これも福井県で久しぶりですけれども、フルマラソンができるようになるっていうこともあります。

あと最近はサイクルスポーツ、サイクリングですよね。三方五湖を中心として若狭湾全体のところで、ナショナルサイクルルートというのを目指して、今取り組んでいます。

さらには、昨年の１０月でしたけれども、オクトーバーラン＆ウォークというイベントがありまして、これ全国の皆さんがアプリを取り入れて皆が歩いたり走ったりする。そうすると、距離とか、それからどれぐらいの人が参加したかっていうので、全国の市や町が競争してたんですけれど。福井県は６つの部門の中の３つで、全国１位の市や町が出てきて、本当に盛り上がったなと思いますので、そういうスポーツを楽しむ、するっていうことも、これからいろいろやってきたいなと思います。

【司会】

知事の話にもありましたが、「ふくい県民応援チーム」に三谷さん、そのチームの一つである「ヴェルコスタ福井」に所属されていますが、「ふくい県民応援チーム」として、どのような活動をされていますか。

【三谷】

広報部というのがありまして、この広報部が中心となって、インスタグラムで県のいいところや魅力発信とかしてたり、ごみ拾いとかしてます。

自分はオリンピックまで拠点が岐阜だったので、あまり参加できなかったんですけれど、今年からはしっかりチームに帯同できるので、選手としてもチーム活動としても、しっかりやっていけたらと思います。

【司会】

私も実際にＳＮＳを拝見しましたが、試合の様子だけではなく、選手が実際に福井の名所をＰＲされているんですね。

「ふくい県民応援チーム」となったことで何か変わったなと感じることはありますか。

【三谷】

福井の方が見てくれることが多くなったので、それに応えるためにはやっぱり結果として返すことが一番かなと思ってます。なので、今年については、プレーの面で、まず楽しいホッケーをすると。結果を求めながら。そうすることで、注目度も増えるしホッケーももっと広まっていくんじゃないかなと思います。

【司会】

知事、ＦＵＫＵＩＲＡＹＳにどんな期待をしていますか。

【知事】

まずは、やっぱり県内を盛り上げるということで、皆さんトップリーグの中で活躍していただいてますので、そこでいい成績を上げていただくというのは一つありますし、もう一つ今もお話に出てきましたけれど、地域への貢献というか、みなさんの中に入ってみんなにスポーツを教えていただいたり、また福井を発信していただくっていうのはとてもいいなあと思っています。

　またファンサービスなんかもですね、どんどんしていただきたいです。私最近、そういう活動をじーっと見て、特にヴェルコスタ福井と丸岡ＲＵＣＫと絡んでいることが多いんですけれど、カップルが誕生したらいいなと思ったりもします。

【司会】

実際どうでしょうか。

【三谷】

一昨年、自分が代表合宿の合間に福井に帰ってきたときに、丸岡ＲＵＣＫさんとフットサルの試合を１回したことがあって、結構、楽しくやらせてもらいました。

でもそういう機会が今後増えていけば、知事が言っておられたことも、若い人が結構多いので、あるんじゃないかと思います。

【知事】

私その場面見ていましたけれど、結構盛り上がって楽しそうにやっていましたね。

【司会】

これからＦＵＫＵＩＲＡＹＳ内の交流が増えていくかもしれませんね。

【知事】

　そうですね。期待しています。

**（スポーツで暮らしにワクワクを）**

【司会】

スポーツの振興がこれからの福井の活性化の一つのカギともなっているようですけれども、スポーツによって、私たちの暮らしもワクワクすることが増えそうですね。

見延さんスポーツは私たちの暮らしにどんなことをもたらすと思いますか。

【見延】

やっぱり、スポーツや音楽などの芸術っていうのは人として欠かせない活動だなと思っていまして、人として人らしく生きるために大切なことだと思うし、また今回オリンピックを経験して、スポーツの持つエネルギーだったり、影響力っていうものをすごく感じたので、僕自身もスポーツを通して地元だったり、日本を勇気づけたり元気づけていけたらなと思います。

【中道】

知事、県民の皆さんにも積極的にもっとスポーツを楽しんでもらいたいなと思いますが、県はどのような取組みを進めていきますか。

【知事】

　はい、まずは皆さん、一つぐらいは何かスポーツやってみようっていうことで「1県民1スポーツ」ということを今取り上げていますし、またできるだけ身近に感じてもらうというか、楽しんでもらうために、街なかスポーツと言っていますけれど、例えば街なかランニングしやすいようなステーションを作ったり、休む場所を作ったりということもしたり、またちょっとしたイベントでスポーツが楽しめるこういうこともいいなと思っています。

またやっぱり盛り上がるためにはプロスポーツや全国大会を呼んでくるっていうのも大事ですので、そういうことでも広げたいと思いますね。

スポーツはするということもいいですし、見るということでも自分が盛り上がるし、また応援するっていうのもあり、そうするとみんなでっていう感じになって地域全体が盛り上がるとか福井全体が盛り上がるとかありますから、そういう意味ではスポーツはいろんな楽しみ方があるので、これからもどんどん応援したいというふうに思います。

【司会】

「１県民１スポーツ」というお話もありましたけれども、今後スポーツをもっともっと身近に楽しむ県民が増えるといいですね。

【知事】

そうですね。

**（今後の抱負・県民へのメッセージ）**

【中道アナ】

最後に、お二人の今後の抱負そして見延選手、三谷選手のように、世界を目指して頑張る子供たち、県民にメッセージをお願いします。

【見延】

昨年は長年の夢だったオリンピックの金メダルを獲得して、一つ夢がかないましたけれども、まだまだ僕の可能性はここにとどまらないと思っていますし、今年３５になる年ですけれども、フェンシングはまだまだ４０でも世界トップで活躍する選手がたくさんいるので、僕も日本人として同じようなステージに立って戦いたいと思います。まだまだ自分の可能性を突き詰めていきたいと思うし、本当に県内の若い子たち、子どもたちにも、夢とか希望、自分の可能性を信じる、一歩踏み出す勇気を忘れてほしくないと思いますし、みんなが忘れないためにも僕がしっかり体現化してみんなに発信していけたらと思います。

【司会】

力強い言葉をいただきました。

　続いて三谷さんお願いします。

【三谷】

自分は今年、見ていて楽しいプレーをしたいなと思っています。その中で結果を求めていくことで、注目度を上げたい。これが抱負です。

世界を目指す子どもたちへの言葉としては、自分がこれまで長い競技人生の中で、ほとんどがやっぱり上手くいかないことが多くて、その上手くいかないことを乗り越えるたびに強くなれたと思ってきているので、上手くいかないことがあっても、一つずつ乗り越えて、強くなっていってほしいと思います。

【司会】

努力を重ねることが大切なんですね。

　知事、お二人の力強い目標・抱負を聞いていかがですか。

【知事】

お二人のお話を伺っていると、スポーツっていうのは、フィジカルに体を使って技術を磨くというところはもちろん大きいんですけれども、心も磨かれているというか、お話を聞いていてとてもすばらしい社会人に成長されてるというか、みんなの心に響くような話をしていただいているので、とてもうれしく思いました。

やはりこれからも、お二人、そしてＦＵＫＵＩＲＡＹＳもどんどん活躍できるように、県民の皆さんがワクワクドキドキできるように応援していきたいですね。

【司会】

お二人の活躍をこれからも県民一体となって応援していきましょう。

　今後もお二人を始め県ゆかりのスポーツ選手、ＦＵＫＵＩＲＡＹＳ、そして未来のスポーツ選手の活躍が楽しみですね。

それでは知事、最後に抱負をお願いします。

【知事】

今日お二人から、本当にたくさんの元気と勇気をいただいたなというふうに思います。今年1年も、これで県民の皆さんもハッピーにいけるんじゃないかと思います。

スポーツには、人の心を動かす大きな力があると思っています。そういう意味では、これからまずはトップアスリートの皆さんのような方をどんどん育てるということもありますし、スポーツそのものを県民の皆さんの間で、日頃から楽しめるような雰囲気をつくっていく、そういうことも大事だということで、桜マラソンとかをやらせていただこうと思います。また北陸新幹線に向けては、「県都にぎわい創生協議会」の中で、福井駅前にアリーナを作って盛り上げたらどうかという話もあります。

もちろん大切なことは中で、どんなスポーツができるのか、どんなスポーツでお客さんを呼べるのかっていうことを考えることが第一ですけれども、そういったことが整ってくれば、アリーナの整備なんていうことも考えるときがくるかもしれないと思います。

何より私も、皆さんの話を聞いて、チャレンジしていかなければならないなと思いました。皆さんも、ぜひそうしたチャレンジの年にしていただきたいと思います。

【司会】

これをきっかけに福井をもっともっとスポーツで盛り上がっていくといいですね。私も身近なスポーツから始めてみたいと思います。

見延さん、三谷さん、知事、今日はありがとうございました。

【３人】

ありがとうございました。